

自己肯定感尺度の検討 (3)

— 自己肯定感尺度 ver. 2 の説明変数を探る —

田中道弘 (埼玉学園大学)

【研究の目的】 近年さまざまな自己肯定感尺度が開発されてきた (田中, 2011)。しかし, どの自己肯定尺度がより精神的健康を測定するために有効であるかなどの検討はなされていない。そこで, 既存の自己肯定感尺度の中から, より有効な自己肯定感尺度を検討することにした。本研究では, これまでの分析結果を踏まえ (田中, 2012, 2013), 自己肯定感尺度 ver. 2 を他尺度がどの程度説明しうるのかを明らかにすることを目的とする。

【方法】 調査時期 2011 年 7 月中旬から 11 月上旬 (調査 1), 2012 年 7 月下旬から 2012 年 10 月下旬 (調査 2)。**調査協力者:** 埼玉県内の A 私立大学の学生, 茨城県内の B, C, D 専門学校の学生の合計 428 名 (男性 165 名, 女性 263 名)。**年齢:** 18~31 歳 (平均年齢 男性 19.7 歳 女性 19.5 歳)。**質問票の構成:** 自己肯定意識尺度 (平石, 1990) の 19 項目 (5 段階評定)。下位尺度は, 自己受容, 自己実現的態度, 充実感。自己肯定感尺度 ver. 2 (田中, 2005) の 8 項目 (4 段階評定), 久芳・齊藤・小林 (2007) 版の 8 項目 (4 段階評定)。樋口・松浦 (2002) 版による 20 項目 (5 段階評定)。自律, 自信, 信頼, 過去受容の下位尺度から構成される。その他の項目として, 調査 1 では, 時間的展望体験尺度 (白井, 1994), ベック抑うつ性尺度 (BDI-1) 邦訳版 (林, 1988), 調査 2 では, 間人度尺度 (柿本, 1995) も合わせて調査を行ったが本研究での分析は割愛した。

【結果】 田中版の自己肯定感尺度 ver. 2 と各自己肯定感尺度との相関を (table1) に示した。その結果, 田中版自己肯定感尺度が, 他の自己肯定感と比べ概ね高い相関を示した。そこで, 田中版自己肯定感尺度を従属変数として, ステップワイズ法により重回帰分析を行ったところ (table2), 平石の自己実現下位尺度, 樋口・松浦の自信下位尺

度が除外された。

table2 ステップワイズ法による重回帰分析の結果

モデル		標準 B	誤差	ベータ	t	p	R ² (調整済み R ²)
1	久芳肯定	0.47	0.03	0.57	14.33	0.00	.33(.32)
2	久芳肯定	0.40	0.03	0.48	13.56	0.00	.49(.49)
	過去受容	0.42	0.04	0.41	11.61	0.00	
3	久芳肯定	0.31	0.03	0.38	10.29	0.00	.55(.54)
	過去受容	0.36	0.04	0.35	10.20	0.00	
	充実感	0.19	0.03	0.27	7.32	0.00	
4	久芳肯定	0.24	0.03	0.29	7.70	0.00	.58(.58)
	過去受容	0.32	0.03	0.31	9.18	0.00	
	充実感	0.17	0.02	0.25	6.86	0.00	
	自律	0.25	0.04	0.22	6.09	0.00	
5	久芳肯定	0.22	0.03	0.26	6.84	0.00	.59(.59)
	過去受容	0.33	0.03	0.32	9.63	0.00	
	充実感	0.14	0.03	0.21	5.69	0.00	
	自律	0.24	0.04	0.21	5.73	0.00	
	信頼	0.13	0.04	0.12	3.40	0.00	
6	久芳肯定	0.21	0.03	0.25	6.42	0.00	.60(.59)
	過去受容	0.33	0.03	0.32	9.54	0.00	
	充実感	0.14	0.03	0.20	5.40	0.00	
	自律	0.20	0.04	0.18	4.74	0.00	
	信頼	0.14	0.04	0.13	3.55	0.00	
	自己受容	0.14	0.06	0.08	2.30	0.02	

n=428

【考察】 自己肯定感尺度 ver.2 の得点を予測するために, ステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果, 久芳ら版の自己肯定感, 平石版の自己肯定意識尺度のうち, 自己受容および充実感下位尺度, 樋口ら版の自律, 信頼, 過去受容が予測に有意で, この 6 つの変数により, 自己肯定感尺度 ver. 2 全体の 60% を説明していることが分かった。その一方で, 精神的健康を測定するとされる自己肯定感尺度でも, 下位尺度の中には十分説明しないものも含まれていることが示唆された。

【文献】

- 久芳美恵子・齊藤真沙美・小林正幸 (2007). 小, 中, 高校生の自己肯定感に関する研究 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, **42**, 51-60.
- 樋口善之・松浦賢長 (2002). 自己肯定感の構成概念および自己肯定感尺度の作成に関する研究 母性衛生, **43**, 500-504.
- 平石賢二 (1990). 青年期における自己意識の発達に関する研究 (1) 名古屋大学教育学部紀要-教育心理学科, **37**, 217-234.
- 田中道弘 (2005). 自己肯定感尺度の作成と項目の検討, 人間科学論究, **13**, 15-27.
- 田中道弘 (2011). 自己肯定感 榎本博明 (編) 自己心理学の最先端 あいり出版 pp129-140.
- 田中道弘 (2012). 自己肯定感尺度の検討 (1) 日本心理学会第 76 回大会発表論文集, 21.
- 田中道弘 (2013). 自己肯定感尺度の検討 (2) 日本教育心理学会第 55 回大会発表論文集, p 283.

table1 各自己肯定感尺度との相関

	自己受容	自己実現	充実感	久芳肯定	田中ver.2	自律	自信	信頼	過去受容
自己受容	1								
自己実現	0.34	1							
充実感	0.31	0.51	1						
久芳肯定	0.37	0.46	0.43	1					
田中ver.2	0.41	0.47	0.54	0.57	1				
自律	0.46	0.51	0.34	0.47	0.54	1			
自信	0.26	0.10	0.02	0.19	0.20	0.46	1		
信頼	0.16	0.31	0.41	0.40	0.40	0.30	0.06	1	
過去受容	0.22	0.26	0.30	0.21	0.52	0.30	0.16	0.07	1